

第1章 振興計画策定について

1. はじめに

三重県は、荒茶生産量全国第3位の茶産地です。県内ほぼ全域が生産適地で、茶栽培の歴史は10世紀初頭にさかのぼる古くからの産地ですが、食生活の多様化などにより栽培面積・生産量は減少傾向にあります。本振興計画は、本県茶業の持続的な発展に向け、生産者や関係者が一丸となって茶生産に取り組むとともに、県民が伊勢茶に親しむ暮らしを楽しみ、伊勢茶のブランド確立と消費拡大をめざしていくためのものです。

2. 振興計画の位置づけ

「お茶の振興に関する法律」第3条、「伊勢茶に親しむ暮らし推進条例」第12条に基づく振興計画であるとともに、「三重県食を担う農業の振興及び農村の活性化に関する基本計画」のうち、茶業振興のための具体的な取組指針となるものです。

3. 計画の期間

令和9年度～18年度の10年間。概ね5年毎、また情勢の変化等をふまえ適宜見直します。

第2章 三重県茶業の現状と課題

1 生産流通の現状

- 茶栽培面積、荒茶生産量は減少傾向
- 緑茶の生産者価格は令和7年から上昇
- 産出額は、県全体の農業産出額1,218億円のうち4.1%（50億円）
- 生産者数、製茶工場数は減少傾向
- 年間生葉処理量100t以上の工場数はほぼ維持
- 栽培経営体1戸当たりの経営面積、製茶工場1軒当たりの取扱面積は拡大
- てん茶、もが茶、玉露の生産が増加、かぶせ茶、煎茶は減少傾向
- 新品種の栽培面積は増加傾向、品種構成は「やぶきた」が84.5%
- 燃料、資材価格等の上昇による生産コスト増加
- 市場の体制強化の進展、契約栽培やBtoCなど取引が多角化
- GAP認証取得・維持が進展

2 消費動向の変化

- 1世帯当たりの緑茶（茶葉）の購入数量は全国的に減少傾向、津市は横ばい
- 津市の1世帯当たり緑茶購入数量は、968g（令和5～7年の平均）で全国3位
- 消費者のリーフ茶購入先はスーパーやECサイトを含む通信販売が増加

3 茶業を取り巻く環境の変化

- 日本茶、特に粉末状の緑茶の輸出入および輸出額が大幅に増加
- EU・英国向けで大きな割合を占める有機栽培茶の輸出入が増加傾向
- 気候変動により夏期、秋期の高温が顕著

第3章 伊勢茶振興に向けた基本的な考え方

1. 伊勢茶振興の果たす役割

伊勢茶は、生産から加工・流通・販売まで関連する業界が広く地域経済を支える重要な産業です。また、その歴史文化・景観は県民が誇る貴重な財産です。本県茶業の維持・発展向け、伊勢茶振興に取り組む必要があります。

2. めざすべき将来の姿

- 需要拡大に対応し伊勢茶が安定的に生産・供給され、将来にわたってそのブランドと産地が守られている。
- 多様な茶業者が共生しながら、三重県茶業が持続的に発展している。
- 伊勢茶に親しむ暮らしが県内に広がり、県民が伊勢茶に対する愛着を持っている。
- 伊勢茶が育んできた文化・伝統が大切に継承され、地域の誇りとして根付いている。

3. 県のこれまでの取組

- 産地が抱える課題の解決に取り組む産地構造改革プロジェクトを支援
- 国事業を活用した茶関連施設の新設・増設、機器や資材の導入等を支援
- 「伊勢茶輸出プロジェクト」の活動により、伊勢茶ブランドの海外販路開拓モデルを構築
- 伊勢茶マイボトルキャンペーンの推進や各種イベントでのPR、伊勢茶関連商品の開発支援、飲食店と連携したメニューキャンペーンの実施、教育機関と連携したアイデアコンテストの開催など、魅力発信や活用方法拡大に向けた取組を実施

4. これまでの取組をふまえた新たな計画における取組方針

- 需要拡大に応じた伊勢茶の安定供給を実現する生産体制の強化
- 茶園の集積・集約等による持続可能な生産構造の確立
- 収益性の高い経営体の育成
- 国内外における販路拡大の促進
- 第三者認証の取得・維持等を通じた流通販売体制の強化
- 伊勢茶に親しむ暮らしを通じた県民の伊勢茶に対する愛着の醸成
- 茶種ごとの特長や、歴史・文化・景観など多様な魅力の発信
- 消費需要の変化に対応した商品・サービスの創出

第4章 伊勢茶振興に向けた施策の展開

1. 施策の展開

取組方向	具体的な取組
I 需要拡大に応じた伊勢茶の安定供給の実現	① 改植や栽培技術の高度化による単収の向上 ② 茶園管理における生産効率の向上 ③ 製茶能力の向上 ④ 需要に対応した茶生産の拡大 ⑤ 各茶種の特長をふまえ特に注力する取組
II 三重県茶業の持続的な発展を支える構造の確立	① 産地のめざすべき姿の共有と基盤整備 ② 茶業従事者の確保と次世代経営者の育成 ③ 実需者に求められる第三者認証の取得・維持の促進 ④ 経営安定に資する情報提供体制の充実と販路拡大支援
III 伊勢茶に親しむ暮らしの推進とブランド力の強化を通じた消費拡大	① 伊勢茶に親しむ暮らしの推進 ② 伊勢茶学を通じた食育活動の推進 ③ 伊勢茶の新たな価値の創出と伝統の継承 ④ 県外・海外へのプロモーション

2. 目標指標

指標	現状（R7）	目標（R18）	対応する取組方向
全国の茶生産量に占める三重県産のシェア ※三重県食を担う農業の振興及び農村の活性化に関する基本計画（第4次計画）における目標指標	7.50 % （R6）	7.65 % （R17）	I
1経営体当たりの茶園面積	2.85 ha	4.18 ha	II
新たに設置された伊勢茶体験ができる施設の数	－	20	III
伊勢茶の消費拡大に協力していただく店舗・事業者数	508 箇所	780 箇所	

第5章 計画の推進体制

計画に基づく取組は、県をはじめ三重県茶業会議所、三重茶農業協同組合、JA全農みえ、JA、市町等と連携して推進します。重点的に取り組む必要のある課題については、プロジェクトを設置して取り組みます。

新たな「伊勢茶振興計画」施策展開の概要(中間案)

取組方向Ⅰ 需要拡大に応じた伊勢茶の安定供給の実現

茶種共通の取組方向

① 改植や栽培技術の高度化による単収の向上

- ・高収量性・高付加価値品種への転換や改植の促進
- ・気候変動に対応した栽培技術の開発・普及の推進
- ・需要の多様化に対応した栽培技術の開発・普及の推進

② 茶園管理における生産効率の向上

- ・作業効率化に資する農業機械の導入の促進
- ・スマート農業機械の実証・生産現場への導入の促進
- ・コストを節減できる栽培管理技術の普及推進

③ 製茶能力の向上

- ・製茶能力の向上、需要に即した製茶工程への転換の促進
- ・製茶施設の新増築や再編・集約の取組の支援

④ 需要に対応した茶生産の拡大

- ・輸出向け防除技術の開発、海外市場で評価される茶葉の生産技術の開発・普及等、輸出向け生産の促進
- ・有機栽培技術の実証・普及の推進

各茶種の特長をふまえた取組方向

⑤ 各茶種の特長をふまえて特に注力する取組

(ア) 煎茶

- ・圃場条件や規模に応じた機械の導入や省力栽培技術の普及を推進
- ・飲料メーカーとの契約栽培では、高収量性品種への転換、安定した品質と収量を確保できる栽培管理技術の普及を推進

(イ) 深蒸し煎茶

- ・生産工程の効率化や栽培加工技術の継承を促進

(ウ) かぶせ茶

- ・被覆適性の高い品種への転換の促進
- ・規模拡大や生産工程の改良による効率化
- ・気候変動に対応した被覆、整剪枝管理、施肥管理の導入促進

(エ) てん茶

- ・てん茶向け品種への転換、輸出向け生産、有機栽培の導入促進

(オ) もが茶

- ・輸出向け生産、有機栽培の導入促進

取組方向Ⅱ 三重県茶業の持続的な発展を支える構造の確立

① 産地のめざすべき姿の共有と基盤整備

- ・産地のめざすべき姿の共有に向けた取組を促進
- ・小規模な基盤整備による作業効率化の促進
- ・放棄茶園の発生防止に向けた産地での茶園情報共有等の基盤づくりの促進
- ・めざすべき姿の実現に向けた集積・集約化、基盤整備の促進

② 茶業従事者の確保と次世代経営者の育成

- ・法人や生葉生産専業での就農、茶園・茶工場の継承等を含め、希望者が円滑に就農できる仕組みづくりの促進
- ・大規模経営を担うことのできる生産者の育成
- ・多様な働き手が茶生産に携わることのできる環境づくりの促進

③ 実需者に求められる第三者認証の取得・維持の促進

- ・GAPや有機JAS等、第三者認証の取得・維持の促進

④ 経営安定に資する情報提供体制の充実と販路拡大支援

- ・経営判断の材料となる情報等を提供する体制の充実
- ・自販等多角化経営の取組、多様な消費者ニーズに対応した商品の開発・創出を促進
- ・茶＋他作物、茶＋加工(6次化)、茶＋観光(茶ツーリズム)などの複合経営を促進
- ・三重県農林水産物・輸出促進協議会と連携した伊勢茶輸出支援
- ・伊勢茶輸出促進プロジェクトを通じた海外販路拡大の促進

取組方向Ⅲ 伊勢茶に親しむ暮らしの推進とブランド力の強化を通じた消費拡大

① 伊勢茶に親しむ暮らしの推進

- ・伊勢茶マイボトルキャンペーンによる飲用機会の定着促進
- ・伊勢茶初摘みの日、伊勢茶に親しむ月間におけるPRの実施
- ・伊勢茶振興の取組をたえる顕彰や乾杯キャンペーンの実施
- ・茶種ごとの特長、歴史・文化などの魅力発信
- ・県民が伊勢茶に親しむ暮らしの推進に主体的に取り組める仕組みづくり
- ・「みえ地物一番の日」キャンペーン等を活用した地産地消の促進

② 伊勢茶学を通じた食育活動の推進

- ・教育現場での伊勢茶学の導入・活用の促進、次世代を担う若者が伊勢茶について学ぶ機会の提供の促進
- ・伊勢茶学と茶の知識を合わせ持つ伊勢茶スペシャリストの育成
- ・伊勢茶学と茶の知識を合わせ持つ伊勢茶スペシャリストによるPR活動の促進

③ 伊勢茶の新たな価値の創出と伝統の継承

- ・コト消費需要に対応した体験型商品・サービスの創出の促進
- ・健康効果等の情報発信や高付加価値商品の開発の促進
- ・県内の茶に関する伝統の継承
- ・萬古焼・伊賀焼などの伝統工芸品や地域特産物との連携による新たな価値・魅力の創出の促進

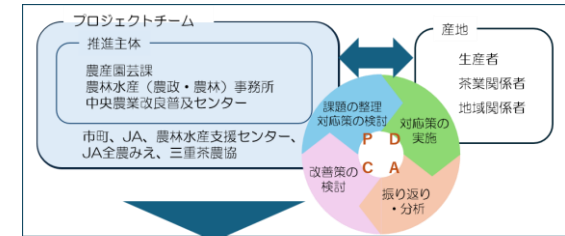
④ 県外・海外へのプロモーション

- ・三重テラス等を活用したPRの実施や関係団体によるPRの支援
- ・宿泊施設・飲食店等と連携した伊勢茶に親しむ機会の提供促進
- ・観光・食・物産が一体となった海外プロモーションの推進
- ・地理的表示(GI)保護制度の活用
- ・伊勢茶の魅力を自ら発信するファンの県外・海外での育成

プロジェクトの推進体制と取組

産地構造改革プロジェクト

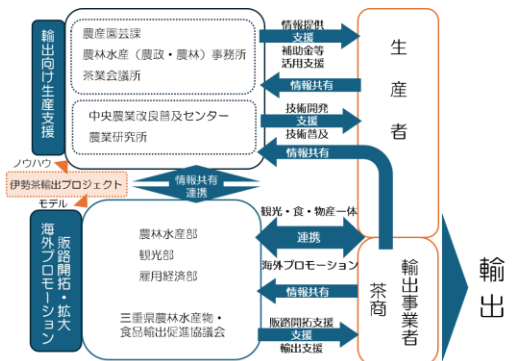
産地のめざすべき姿の共有、実現に向けての取組を視野に入れながら、産地ごとの課題解決に取り組み、生産者の持続的な生産や経営安定化・収益向上に取り組めます。



地域のめざすべき姿に向けての取組

伊勢茶輸出促進プロジェクト

輸出向け生産の拡大を促進するとともに、輸出に関心のある県内の茶事業者において、伊勢茶輸出プロジェクトで構築した販路開拓モデルの波及を図り、輸出拡大を促進します。



伊勢茶に親しむ暮らし推進プロジェクト

県や茶業関係者だけでなく県民も参加できるプラットフォームを設け、伊勢茶振興に主体的に関わることのできる仕組みづくりを進め、県民全体で伊勢茶に親しむ暮らしを推進します。



伊勢茶に親しむ暮らし拡大・伊勢茶消費拡大